



## 〈目標5〉ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

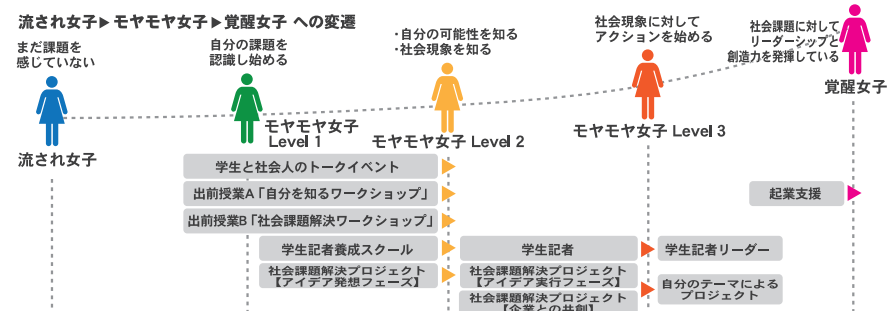
2012年から4年間で、上場企業の女性役員数は2倍以上に増えてはいるものの、その割合は依然として12.5%に留まり、米国43.4%、ノルウェー36.0%と比較するととても低い割合である。活躍する女性が増えている一方、出産を期に退職する女性もまだ少なく、結婚や出産と仕事を両立することに不安を抱えた女子学生も多い。

### 女子学生が社会変革の担い手になる～流され女子から覚醒女子へ～

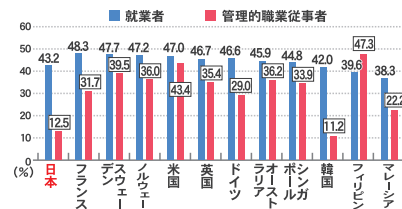
NPO法人ハナラボは、産官学民と協働した課題解決を通じて、女子学生のリーダーシップや創造力を引き出し、社会変革の担い手として人材育成に取り組んでいる。2008年にリリースした自主メディアでは、女子学生がワーキングマザーや多様な業種の社会人女性に取材する。取材依頼から編集、発信までを彼女達が行い、社会との関わり方や働き方の多様性を知ることで、生き方・働き方の可能性を広げていく。現在、約500記事が掲載されている。

この活動を通じて、女子学生の主体性や発信力の高さに驚いた角代表は、機会と適切なプログラムがあれば誰でも自分の強みを発揮できるはずだと考えた。そこで、女子学生の強みである「共感力」「発想を

#### 流され女子から覚醒女子までの段階に応じたプログラム

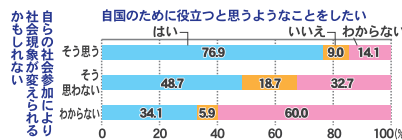


就業者及び管理的職業従事者に占める女性の割合(国際比較)



出典:男女共同参画白書 平成28年度版

満13～29歳を対象とした意識調査「社会現象が変えられるかもしれない」に対する結果



出典:内閣府 平成26年度版子ども・若者白書(概要版) 特集「今を生きる若者の意識～国際比較からみえてくるもの～」

広げる力」「つなげる力」を伸ばすプログラムを用意し、「社会課題解決プロジェクト」を開始した。

何らかの社会課題をテーマに自治体や企業等が女子学生と協働し、課題解決のための計画を立て実行する。2013年から現在までに12のプロジェクトが実行された。その1つ「ヨコハマハコいりムスメプロジェクト」(2013～2015年)では、大佛次郎記念館の来館者数減少を課題に抱える横浜市と記念館、そして30人超の女子学生が協働し「記念館と地域をつなぐ企画」を提案。3年間で11の企画を実現させた。最初は受け身だった女子学生も主体的に動くようになり、責任感やリーダーシップを身につけていった。

ハナラボは、課題解決の発想・発信トレーニング、実践・社会参画の場を提供することにより、女子学生の能力や自信を高めている。同時に、女子学生自らが社会を変える存在であると自覚させ、社会変革の担い手として活動する後押しをしている。



食品加工場を営む女性たちと、地元の食材を使ったお弁当を共同開発



大佛次郎記念館活性化の取り組みで、文庫本5,000冊でモザイクアートを制作



- 対象は見逃されてる70万人の「普通の」女子学生
- 女性の潜在能力に対する期待と女性が力を発揮しやすいリーダーシップに注目
- 社会課題解決のプロセスを通じた女子学生のリーダーシップを育成
- 画期的なアイデアを生み出すための創造力を育成

#### ● NPO法人ハナラボ

女子学生を社会変革の担い手にすることを目指し、女子学生の創造力やリーダーシップを育むNPO法人。女子学生を社会変革の担い手として育成すると同時に、企業や自治体とともに社会課題の解決に取り組む。2008年に母体となる「あたらしい、わたらしい働きかたと出会う、女子学生のためのWebマガジン ハナジョブ」を立ち上げ、2011年からは自治体や企業と協働して「女子大生が社会課題の解決に挑むプロジェクト」をスタート。2012年にNPOとして法人化。代表理事は角めぐみ氏。

[NPO法人ハナラボ] <http://hanalabs.net>